

海外事務所だより

ニューヨーク事務所

国際姉妹都市連盟総会にみる 日米姉妹都市交流の現状

(財)自治体国際化協会ニューヨーク事務所所長補佐 酒井 晋一郎(総務省派遣)

はじめに

日本の姉妹都市提携数は2013年8月31日時点で1,649件に達しています。中でもアメリカとの姉妹都市提携は、1955年12月の長崎県長崎市とミネソタ州セントポール市との締結をはじめとして、現在では440件まで拡大しました。アメリカとの姉妹都市提携数は、姉妹都市を提携している国の中で最も多い提携数となっています。アメリカでの姉妹都市交流は、1956年にアイゼンハワー大統領が提唱した、草の根のレベルでの交流を通じて市民相互の理解を深めることで世界平和の実現を目指す「People-to-People Program」を契機にして大いに発展しました。1967年には、文化、教育、経済による交流を通じた平和の推進のため、非営利団体の国際姉妹都市連盟（Sister City International以下、「SCI」）が設立されました。本稿では、SCI総会の模様を通じて日米姉妹都市交流の現状について報告します。

第57回 SCI総会

SCI総会は、海外に姉妹都市を持つアメリカの都市が中心となり、さまざまな意見交換を行うため開催されています。第57回 SCI総会は2013年7月にテキサス州サンアントニオ市で開催されました。総会には25か国から500人以上が参加し、サンアントニオ市の姉妹都市であるメキシコのモンテレイ市、グアダラハラ市、日本の熊本市、韓国

の光州広域市からはそれぞれ市長が出席されました。オープニングセレモニーでは、姉妹都市提携が25周年を迎えた熊本市長などからあいさつが行われました。総会では、パン・パシフィックサミット、姉妹都市インフォセッションや現地日系企業の自動車工場の見学といった市内ツアーなどが実施されました。

パン・パシフィックサミット： アメリカ-アジア姉妹都市交流に おける自治体の展望

このセッションでは、日本、中国そしてアメリカからパネリストが参加し、姉妹都市交流の展望についてディスカッションが行われました。日本のパネリストとしては、当事務所の緒方所長が参加しました。緒方所長からは、国同士の関係には外交関係、経済関係そして草の根交流の関係があり、互いの信頼関係を構築するためには草の根交流が重要であること、そして東日本大震災の際に姉妹都市からの支援を受けたように、姉妹都市関係は自然災害時に互いの助け合いをもたらすという面もあることが述べられました。

中国からは中国人民対外友好協会の副会長であるXie氏が参加し、姉妹都市交流はアメリカと中国の関係を深めるために非常に重要であることが述べられました。また、中国では都市人口が増加していること、都市の規模が拡大していること並びに自治体の規模が高度化していることから、ア

メリカとの姉妹都市交流の拡大は今後有益であるとの話がありました。同協会は中国政府から姉妹都市関係の構築を委託されており、アメリカとの姉妹都市交流を深めるために中国・アメリカ姉妹都市総会を隔年で開催しています。

アメリカからはロサンゼルス市議のLaBonge氏が参加し、名古屋市と互いに代表団を送っていることに触れ、スポーツや音楽はインターナショナルなものであり、交流を行う上で重要な鍵であるとのことが述べられました。また、ロサンゼルス市は「Los Angeles Sister City News」を発行しており、ニューズレターを通じて姉妹都市交流の状況を広報していることも併せて紹介されました。

各パネリストのプレゼンテーション終了後に来場者から非常に多くの質問が寄せられ、セッション終了後も各パネリストは来場者から質問を受け続けるなど非常に盛況なセッションとなりました。特に中国人民対外友好協会のXie氏には来場者の質問が集中しており、アメリカの自治体が中国との姉妹都市交流に興味を持っていることがうかがえました。

セッションへの参加を通じ、中国では国家施策のもとで熱心に姉妹都市交流を行っていること、また、ロサンゼルス市のような大都市であっても、ニューズレターの配布などを通じて姉妹都市交流を持続していくために地道な努力をしていることがわかりました。



プレゼンテーションを行う緒方所長

パン・パシフィックサミット： 日米姉妹都市交流についての 考えと今後の道筋

このセッションでは、日米の姉妹都市関係者がペアになり、姉妹都市交流の状況が発表されました。セッションは二部構成となっており、合計11組の日米姉妹都市のペアが発表を行ったので、交流の状況をいくつか紹介します。

岩手県花巻市・アーカンソー州ホットスプリングス市では行政間の交流があり、花巻市はホットスプリングス市に短期で職員を派遣し、市内において職員の行政研修を行っています。さらに、ホットスプリングス市から紹介いただいた方を花巻市の非常勤職員として採用し、当該職員が両市の姉妹都市交流を含む国際都市化に向けた事業の推進を担当しています。また、花巻市が宮沢賢治の生誕の地であることから、姉妹都市交流20周年を記念して、本年10月にホットスプリングス市に宮沢賢治のモニュメントが設置されます。宮沢賢治の関係者からご理解をいただき、設置が可能になったのも長い交流の結果によるものであるとのことでした。

福岡県北九州市・ワシントン州タコマ市では、北九州市の協力でタコマ市内のポイント・デファイアンス・パークで日本庭園の改修が予定されており、日本庭園を通じた文化の交流が行われています。また、両市が公害克服の経験を共有していることから、北九州市からは今後環境分野の経済交流の可能性を探りたいとの発表がありました。

大分県大分市・テキサス州オースチン市では音楽を通じた交流を行っています。大分市は市内で開催するミュージックフェスに2010年から毎年オースチン市のミュージシャンを招いており、大分市内でのオースチン市の知名度は高まっています。また、2012年には、オースチン市で開催されているサウスバイサウスウェストという音楽祭へ大分市のアマチュアミュージシャンの参加が実現したとの発表がありました。

それぞれの市に合った交流事業を行うことは姉妹都市交流の基本であること、また、交流の継続

が大切であることを認識したセッションとなりました。



パン・パシフィックサミットの様子

姉妹都市インフォセッション

スポーツ外交をテーマにしたセッションでは、パラリンピックの金メダリストも参加し、寄付金などによって参加費用を調達してバルセロナ、アトランタ、シドニーオリンピックに出場した経験を述べました。スポーツによる交流は人と人の交流を行うために重要な方法であり、アメリカの選手はワークショップを開いてスポーツ交流に一役買っていることについても話がありました。また、アメリカでスポーツ外交を行う際には政府との調整が重要であり、その調整方法について説明がありました。特に難しいのは選手のビザの取得であり、渡航先で選手が逃亡することも考えられるために入国する選手の情報に関する書類を大量に準備しなければならない、といった苦労についても話がありました。また、FIFAといった国際的なスポーツ機関の協力を得ることもスポーツイベントを行う際には重要です。

スポーツ交流は、市民間の交流が主な目的であっても、国際的組織の協力や政治的問題の解決が不可欠であることがわかります。

寄付金の調達をテーマにしたセッションでは、非営利団体が資金調達を行う際の方法を著した Jerold Panas 著『Asking』が紹介されました。寄付金を得る際には直接会って話すことが重要です。相手との対話の際には、事業内容などを説明するのは全体の25%程度にとどめ、残りの75%は相手がどのような事業に寄付を行いたいのかといった意向を聞くことに徹する必要があります。また、

寄付をしてくれた相手に対しては常にコミュニケーションを取り、寄付をしてくれたことに対して繰り返し感謝の意を伝えることが重要であるとのこと併せて述べられました。

アメリカの姉妹都市交流は主に寄付金で賄われており、主に税金により賄われている日本とは異なることが理解できました。たとえ資金が足りなくても、寄付金を募って交流事業を進めようとするアメリカの人々の姿勢に、姉妹都市交流に対する熱意を感じました。

参加者との交流を通して

SCI総会に参加して、セッションやレセプションの場で非常に多くの日米姉妹都市関係者と交流を行うことができました。日本では姉妹都市交流事業を担当しているのは主に自治体の国際担当部局ですが、アメリカでは主に姉妹都市協会といった非営利団体が担当しており、在米日系人も多く所属しています。レセプションやセッションの場で日米双方の事情に通じている彼らと意見交換をした際には、SCI総会のような姉妹都市が集まって意見交換をする機会が日本国内でも必要ではないか、との意見をうかがいました。姉妹都市交流の進め方は日米で異なりますが、お互いの立場を理解しつつ交流を継続することが大切であることを、SCI総会への参加を通じて実感しました。当事務所としては、新規の姉妹都市提携の締結だけでなく、既存の姉妹都市交流の活性化についても取り組んでいきたいと考えています。

次回第58回 SCI総会については、カリフォルニア州サンノゼ市において2014年7月30日から8月3日にかけて開催される予定です。



クロージングセレモニー終了後の音楽イベント